

絵双六で明治日本の近代化を表現する

早稲田大学系属早稲田実業学校中部部 山岸英生

1. 実施学年及び教科・領域

中学校第3学年（6クラス 計221名）社会科・歴史的分野

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

（1）単元名 「近代国家へと歩む日本」

（使用教科書：『ともに学ぶ人間の歴史 中学社会歴史的分野』学び舎）

（2）ねらい

①学習指導要領との関連

本単元は、中学校学習指導要領第2章第2節社会〔歴史的分野〕2内容C「（1）近代の日本と世界」の内、「（イ）明治維新と近代国家の形成」、「（ウ）議会政治の始まりと国際社会との関わり」に対応して設定したものである。指導要領においては、（イ）に「開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解すること」、（ウ）に「自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したことを理解すること」とあるが、「開国とその影響」は前に学習する単元で、「日清・日露戦争」や「条約改正」は次に学習する単元で扱うものとする。なお、この単元設定は使用教科書『ともに学ぶ人間の歴史』（学び舎）の「第7章 近代国家へと歩む日本」に対応するものである。

単元の導入授業の際には、歴博所蔵の絵双六を使用する。まず、近代日本の在り様に関する学習課題（問い）を生徒に示す。次に絵双六を実際に体験し、そこから考えられることをジグソー活動などを通じて共有し、最後には生徒一人ひとりが学習課題への仮説を立てるという流れである。この導入授業では、各自が所持している端末（Surface）を利用してグループワークを行ったり、語句の意味などを調査したりする予定である。これらは、指導要領の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」に「情報の収集、処理や発表などに当たっては、学校図書館や地域の公共施設などを活用するとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、指導に生かすことで、生徒が主体的に調べ分かつようとして学習に取り組めるようにすること」とあることにも対応していると言える。

②単元の目標

・明治維新によって近代国家の基礎が整えられて人々の生活が大きく変化したことや、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことなど、日本の近代化についての基礎的な知識を身につけ、理解している。

・日本の近代化に関する事がらを相互に関連付けるなどして、時代の特色を多面的・多角的に考察し、単元のまとめのパフォーマンス課題などにおいて表現することができる。

・日本の近代化に関わる事がらについて主体的に探究するとともに、よい作品づくりに向けて学習を振り返ったり、学習計画を立てたりすることができる。

(3) 博物館との関連

①活用方法：「非来館型活用」

②活用資料：下記の歴博所蔵の絵双六（各資料の概要及びねらいは次頁）

A「成功双六」（明治37年『長野新聞』付録）H-22-3-150

B「少年少女小学教科雙六」（明治40年『少女世界』付録）H-952-1

C「新版開化萬物雙六」（明治22年）H-952-26

A



B



C



各資料の概要及びねらい

- A「成功双六」 この双六には、苦学や労働などを経て、博士や大臣そして華族になることが「成功」として描かれている。小学校や中学2年で学習した近世の身分制度と比較し、近代化による日本社会の変化を考えさせたい。また、この双六には男性しか描かれていないことにも注目させたい。
- B「少年少女小学教科雙六」 この双六には、明治期の日本の小学校での様々な科目の授業の様子が描かれている。中学2年で学習済みの近世の寺子屋などの教育と比較し、日本が近代化の中でどのような教育制度を整備し、どのような人材を育成しようとしたのかを考えさせたい。髪型や服装などに着目すると、男女の近代化に違いが見られることにも着目させたい。
- C「新版開化萬物雙六」 この双六には、明治期の様々な新しい文物が描かれている。多くのものは文明開化とよばれる風潮や、政府による殖産興業政策によって新しく西洋からもたらされたものである。中学2年で学習済みの近世の外交や、直前に学習した世界史の内容などと比較し、明治期の日本の近代化の特色を考えさせたい。なお、この双六のかな文字を読むことはかなりの時間を要するので、担当者が活字にしたものを各グループに配布した。

(4) 指導観

勤務校の社会科では、地理的分野を中心として、生徒の作品制作やプレゼンテーション、グループ活動などを柱に据えた授業を展開している。歴史的分野でも、単元ごとに学習課題となる問いを示し、企画書やチラシ作成などのパフォーマンス課題に取り組み、プレゼンテーションをするという学習活動に取り組んできた。本単元ではこれまでの授業展開と同様に、「近代化によって日本はどう変わったのか？」という単元の学習課題（問い）を生徒に示し、仮説を立てて単元全体への見通しを立てることを導入の授業とする。その後は、テーマごとの学習で仮説を補強・訂正する過程を経て、まとめの授業として単元の学習課題（問い）にもう一度向き合って考察し、パフォーマンス課題に取り組むという流れで単元の授業を展開する。

2023年度末の授業アンケート（回答数121）では、「パフォーマンス課題に意欲的に取り組みましたか？」という問いに対して、生徒の回答は「とても意欲的に取り組んだ」が37.2%、「まあまあ意欲的に取り組んだ」が57%となり、継続して実践していることもあって多くの生徒が抵抗感なく、かつ意欲的に課題に取り組んでくれているようである。一方で、「パフォーマンス課題の難易度はどうでしたか？」という問いに対しては、「まあまあ難しかったが、なんとか取り組めた。」が82.6%、「とても難しく、非常に取り組みにくかった」が2.5%となり、難しさを感じている生徒が多いようであった。

今回の博学連携の実践では、歴博の豊富な絵双六のコレクションの中から、明治時代のものをピックアップし、単元の導入授業、まとめの授業で用いることとした。それらの絵双六で実際に遊び、読み取ることを通じて単元の学習課題（問い）に対する仮説立てを行い、最後にはそれらの絵双六をモデルとしながら、明治日本の近代化を表現した絵双六を作成する。実際に明治時代の子供たちが遊んだ絵双六を追体験することは、生徒のこの時代の歴史学習に対する興味・関心を高めることになるだろう。それだけでなく、社会状況・時代状況と極めて密接な関係をもって作られてきた絵双六からは、明治日本の近代化の一端を読み

取ることができるのではないかと考えている。また、上記のようなパフォーマンス課題に難しさを感じている生徒たちにとっては、歴博所蔵の絵双六がパフォーマンス課題に取り組む際の足場となるのではないだろうか。

3. 指導計画（総時数 12 時間）

単元の指導計画は、以下の通りである。歴博資料（A～Cの絵双六）を使用した導入の授業（2 時間、網掛けの箇所）は 2024 年 5 月末～6 月初旬に実施した。その後、6 月～7 月初旬に展開の授業を実施した。そして、単元のまとめとしてパフォーマンス課題の作成を生徒に課した。課題については 7 月中旬に生徒に詳細を示し、夏期休暇後の 9 月初旬にそれぞれの作品を持ち寄って発表会を実施し、相互評価した。

過程	時数	学習内容・学習活動	評価の観点
導入	2	単元の学習課題（問い）：近代化によって日本はどう変わったのか？	
		・単元の学習課題の提示・課題の説明 ・歴博所蔵の絵双六を用いたグループワーク（ジグソー法） ・単元の学習課題への仮説立て	・思考力・判断力・表現力 ・主体的に学習に取り組む態度
展開	各 1 計 7	大名も武士もいなくなった—明治維新—	・知識・技能
		村に学校ができた—学制と徴兵令—	
		632 日、世界一周の旅—文明開化—	・思考力・判断力・表現力
		工女は兵士に勝る—殖産興業と地租改正—	
		昔—揆、いま演説会—自由民権運動—	・主体的に学習に取り組む態度
		民衆がつくった憲法—五日市憲法—	
		天皇主権の憲法—立憲国家の成立—	
		北・南を組み込み、国境を引く—領土確定と外交—	
まとめ	1	・単元の学習課題への再考察。 ・歴博所蔵作品をモデルとしたパフォーマンス課題（学習課題を表現した絵双六）の計画立案。 ※勤務校では 7 月に「課題配信期間」が設定されており、本時は配信（1 時間扱い）という形をとる。 ※パフォーマンス課題の作成は夏期休暇課題とする。	・思考力・判断力・表現力
	2	・各クラスを 3 グループ程度に分け、それぞれのグループで各自のパフォーマンス課題を発表。 ・発表を踏まえ、パフォーマンス課題を相互評価。 ・クラス内で評価の高かった作品を複数選択し、実際に双六作品で遊び、学習課題について振り返る。	・主体的に学習に取り組む態度

4. 実施の概要

(1) 導入授業について

ここでは、歴博資料を使用した導入授業の展開のほか、授業での配布物や生徒の取り組み例などを資料として掲載し、実際の授業の様子について示したい。

導入授業の展開 1 時間目

過程	時間	学習内容・学習活動	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	10 分	単元の学習課題（問い）：近代化によって日本はどう変わったのか？	
		- ワークシート（資料 1）を配布する。 - 本単元の学習課題、パフォーマンス課題について説明する。 - 絵双六について解説し、本時の学習活動について説明する。	□様々な明治期の絵双六を示し、子どもを主な対象とした教育的な機能や広告的な機能を持ったものであったことに目を向ける。 ■明治期の絵双六が当時の社会・時代の状況と極めて密接な関係をもって作られてきたものであること理解している。
展開①（エキスパート活動）	30 分	- エキスパート活動のグループ（A～Cの3種類、3人程度のグループ。各クラス 12 グループ程度）に移動して着席する。 - Aには「成功双六」、Bには「小学教科雙六」、Cには「新版開化萬物雙六」をサイコロとともに配布し、グループごとに実際に遊んでみる。 - それぞれの絵双六を参考にしながら、学習課題についてグループで考え、ワークシートに記入する。（資料 2）	□絵双六の中の変体仮名やくずし字は、裏面に解説を印刷しておくなどして生徒が内容を読み取れるように配慮する。 □適宜 4 人グループを作るなど、最低でも 3 人となるよう配慮する。 □分からない用語はインターネットなどで調べて書き込みながら遊ぶようにうながす。 ■絵双六の中にある近代日本に関する事項を読み取ることができている。 ■絵双六の中にある近代日本に関する事項から学習課題について考え、簡潔にまとめることができている。 ■主体的に活動に参加し、絵双六から学習課題について考えようとしている。

展開② (ジグソー活動)	10 分	・ジグソー活動のグループ（A～C が混ざった 3 人程度のグループ。計 12 グループ程度）に移動して着席する。 ・エキスパート活動で分かったこと（どんな絵双六だったか、絵双六から何が分かったか、学習課題についてどのようなことが言えるか）を発表し合い、ワークシートに記入する。（資料 2）	□クラスの出席者が 3 の倍数にならない場合も、必ず A～C が 1 人以上いるグループとなるよう配慮する。 ■ A～C の絵双六から分かったことをそれぞれが分かりやすく発表し、発表を聞いた生徒はそれをまとめることができている。 ■主体的に活動に参加し、絵双六から学習課題について考えようとしている。
-----------------	------	---	---

導入授業 2 時間目の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	5 分	・前回と同じジグソー活動のグループに移動して着席する。 ・前回のジグソー活動の続きからスタートすることを説明する。	□欠席者などにより前時と同じメンバーにならない場合は、負担が重くなるグループが出ないように、グループを合体するなど適宜配慮する。
展開② (ジグソー活動)の続き	15 分	・前回のジグソー活動で発表し合い、ワークシートに記入した内容を、Jamboard に分かりやすくまとめることを説明する。 ・Jamboard には A～C の絵双六から読み取り、考えたことをふせんで貼り付けるだけでなく、全体を通じて学習課題について考えられることも含めてわかりやすくふせんで表現する。（資料 3）	□ A～C の絵双六のそれぞれから読み取れたことだけでなく、小学校の学習なども踏まえながら学習課題についての仮説を立てるように伝える。 ■ A～C の絵双六の中にある近代日本に関する事項を分かりやすくスライド上に表現し、学習課題について簡潔にまとめることができる。 ■主体的に活動に参加し、絵双六から学習課題について考えようとしている。
展開③ (クロストーク活動)	15 分	・グループごとに、ジグソー活動の成果をクラス全体に対して簡潔に発表する。 ・各自で各グループの Jamboard を観察する。 ・各グループの発表や Jamboard を見聞きして分かったことをワークシートにメモする。（資料 2）	□絵双六の細かな内容ではなく、全体として考えられることを中心に 1～2 分程度で簡潔に発表するよう各グループにうながす。 ■他のグループの発表から、自分たちに無い視点を発見し、簡潔にまとめることができる。

まとめ	15 分	・グループを解体し、クラスの本来の座席に移動する。 ・学習課題への仮説をまとめ、GoogleForms で提出する。(資料5)	■グループ活動の成果や小学校時の歴史学習などを踏まえ、学習課題についての仮説を立てることができる。
-----	------	--	--

資料1 ワークシート（パフォーマンス課題や授業展開について説明する「その1」）

2024 年度 早稲田実業学校 中等部3年 歴史ワークシート① その1
第4部 近代 第7章「近代国家へと歩む日本」

第7章の問い:近代化によって日本はどう変わったのか?

第7章のパフォーマンス課題 あなたは、中学校の社会科の先生として働いています。楽しく学校生活を送っていますが、「近代国家へと歩む日本」の学習を進めっていると、生徒達は「近代化って?」「覚えることがばかりで面白くない!」とずいぶん苦戦している様子。そこで、千葉県佐倉市にある国立歴史民俗博物館が所蔵している絵双六をヒントに、楽しく遊べて、なおかつ「近代化によって日本はどう変わったのか?」ということについてよく理解し、考えることができる絵双六をオリジナル教材として用意し、授業のまとめで実際に使用してみることにしました。この、まとめの授業で使用する絵双六を作成してください。

「絵双六」とは、もちろん絵のついた双六のことで、以下のように解説されています。

絵双六が芸術的なものとして発展していったのは江戸時代の後期からでした。この時期には木版による印刷技術が最高水準に達し、錦絵という極彩色の木版画が作られるようになりました。この技術を活かして絵双六も作られるようになり、優れた作品が作られていきます。(中略)

この時期に到達した技術や、双六作りの発想は明治初期まで継承されていきます。しかし明治中期以降になると、木版から石版印刷や活字組版印刷に変わっていききました。これにより木版時代よりも大量印刷も可能になりました。やがて少年少女雑誌の正月号の付録となって、全国各地に広く行き渡るようになっていきました。戦前までの双六の多くは良くも悪くも子供の勉強や道徳教育のサブテキストとして活用されたといえます。

(東京学芸大学附属図書館 HP「講演:『絵双六の世界』」より)

明治になって大量印刷されるようになった絵双六は雑誌の付録となり、子どもたちの遊び道具として、さらには教育の道具として用いられたようですね。では、以下に今日と次回の授業の流れについて説明します。

今回・次回の学習の流れ

グループワーク①(エキスパート活動)

- ①3人程度のグループに分かれ、担当することになった AorBorC の絵双六を見ましょう。「廻り双六?飛び双六?」「振り出しはどこ?」「上りはどこ?」などをまず確認しましょう。
- ②サイコロを振って、遊んでみましょう。その中で分からない用語などは Surface を使用して検索して下さい。直接双六に書き込んで構いません。
- ③それぞれの絵双六から読み取れることと、「近代化によって日本はどう変わったのか?」という問いについて考えられることを話し合い、ワークシートに出来るだけたくさん記入しましょう。

グループワーク②(ジグソー活動)

- ①数字ごとのグループに分かれ、グループワーク①(エキスパート活動)で話し合ったことを発表し合います。聞いたことは、ワークシートに記入しましょう。また、3つの絵双六や小学校の歴史学習を踏まえて、今回の問い「近代化によって日本はどう変わったのか?」について考えられることを話し合います。
- ②発表し合ったこと、話し合ったことを簡潔に Jamboard にまとめましょう。(問いへの答えが分かるように!)

クラスワーク(クロストーク活動) + 個人ワーク

- ①各グループに1分程度、簡潔に発表してもらいます。発表を聞きながらワークシートにメモしてください。
- ②最後は個人で考察をまとめて、Forms で提出して下さい。

資料2 ワークシートの取り組み例（生徒が取り組みを記述する「その2」）

2024 年度 早稲田実業学校 中等部 3 年 歴史ワークシート⑪ その 2

★私の番号は…【 B — 4 】

グループワーク①(エキスパート活動)

メンバー【

まず自分たちが担当する絵双六で遊ぼう!その絵双六をもとに、グループで問いについて話し合おう!

※グループワーク②のメンバーに、今回の話し合いが伝えられるように、以下の空欄に記入すること。

学生→男女両方の性別がわる。ただ、例えば理科の授業には男性しかりなりで一部で男女別学の思想もみられる。また先生も男女両方の性別があり女性の社会進出がみられる
生活→「休み時間」「休日」といった概念は江戸時代には存在しておらず明治になってからの思想
授業→「英語」「理科」といった今にもつながる教科が誕生。寺子屋と比べて大幅な近代化
服装→先生はほぼ全員スーツ(=洋服)姿。生徒も男子は約半数が洋服姿。ただ男子の
もう半分で多くの女子は着物姿であり、当時が近代化への過渡期だ。たことがうかがえる。
は(か)するで身分経済力の差もある(かもしれない) 教材→黒板にヒアリ(机ガ?)、テーブルと西洋
ものが目立つ。とほりえ、そろばんや算盤で日本本来のものも根強く残る。類古→生徒主体のカズ

グループワーク②（ジグソー活動）

メンバー【

自分のグループ (A or B or C) で話し合ったことを 1 人ずつ報告し、それらを踏まえて、グループで今回のテーマの問いについて話し合おう！また、その内容を Jamboard に分かりやすく表現しよう。

⇒ 明治になって、西洋の文化が入ってきて近代化。女性の社会進出、日本本来のものも残った。

クラスワーク(クロストーク活動)

各グループの話し合いの結果を聞いて(見て)、気になるフレーズや自分たちに無かった視点をメモしよう。

- ・差別が少しずつなくなつた。男、女、職業差別は完全には無くなつてゐない。西洋化により蒸気機関車などが入つてきた。英語が学校の教科になつたりして近代化。・年上が偉い。
 - ・西洋にも男女差別はあるので明治になつても根強く残つてゐる。・和の道具もかなり残つてゐる。
 - ・民衆も異国文化に解れる。①男女で別々の教科を習う→男女差別がなくなってゐた。
 - ・新たな職業、女も学校に行く→職業選択の幅が広がる。・和→西洋への変化の過渡期。
 - ・人々の服装などから生活が良くなつてゐることが分かる。・西洋化は文化だけでなく職業などにも。
- ・女性 = 家事という固定概念の誕生

導入の授業の様子



展開① Bの双六で実際に遊んでいる様子



展開② 内容をお互いに説明している様子



展開② Jamboard を共同編集している様子 展開③ グループ代表者が発表している様子

資料 3 展開②（ジグソー活動）で作成した Jamboard

例① 絵双六ごとにふせんを貼り分けたもの（資料 2 の生徒が参加する班）

4 班 メンバー： XXXXXXXXXX

まとめ 明治時代になって西洋の文化が入って来たことにより、人々の生活の中心は大きく近代化を遂げた。また江戸時代には、西洋の社会構造も入る。一方、幕府や藩と日本改革のものもある。

A	身分制度の解消	能力重視の社会に	学んでいるのは男のみ→男女平等があまり進んでいない	博士、大臣など様々な職業の誕生	服が洋服になり近代化した	海外へ留学という選択肢ができた	一部の人は着物
B	教師は男女両方の性別⇒女性の社会進出	生徒は男女両方	一部では男女別学の思想（理科は男子しか受けていない）	休み時間や休日という概念の誕生	「英語」「理科」といった西洋からの教科が誕生	先生は金銭スーツ（＝洋服）男子の生徒は約半数が洋服着。男子の半分と女子は約半数が洋服着。西洋文化の浸透から洋服への変化の過程	級長（＝組長）⇒生徒主体の運営
C	蒸気車や蒸気船など交通網が拡大	郵便制度も整備された 人と人とのかわり方の拡大	新聞会社も次々できた 日日新聞	生活圏においては、男女の差はあまりなさそう 洋服の文化も浸透しているのは、男が多い気がする	ガス灯ができて割れたら直すリサイクルのシステムが確立	洋服は西洋と西洋のものが入り混じっていて、江戸時代と明治時代のはさまってあったことが分かる	萬物開花 というタイトルにもあるようにすべてのものが近代化

例② 読み取った内容ごとにふせんを貼り分けたもの

7 班 メンバー： XXXXXXXXXX

A
B
C

男女の差

地位が高い人は男の人しかない

休養や遊戯などの授業以外は、男女によって授業が分かっている

男女で就く職業に違い

職業格差

地位が高くなればなるほど幸せという考え方が根付いている

上に行けば行くほど良い職業になっている

西洋の文化が浸透

地位が低い人は和服、高い人は洋服を着ている	入学や卒業などの晴れ舞台では、洋服を着る生徒がいる	日曜休み→キリスト教の浸透	牛肉屋の登場	蒸気船や蒸気車の登場	電気燈、電信機、フリキ、ガス燈
洋行の絵から日本人には西洋の方が上という認識があることがわかる	すごろくの所々に、西洋の物が描かれている	英語の授業がある	ちゃんまげではなく、髪を生やしている人がいる	西洋の技術と取り入れる	西洋床（床屋）や西洋写し絵

<まとめ>

近代化によって、日本には西洋の文化が浸透するようになり、性別や職業によって格差が生まれるようになっていった。

資料4 学習課題（問い）に対する生徒の仮説例（破線部については「5. 成果と課題」で述べる。）

例①の Jamboard を作成したグループの生徒

・明治時代になり開国によって西洋の文化が入ってきたことで、技術面や生活のシステムにおいて大きく西洋化、近代化がなされた。一方で一朝一夕に近代化がされたというよりかは、時間をかけて徐々に近代化されていったというイメージであり、明治の初期はちょうどその過渡期であったと考えられる。江戸時代と比較し、身分制度が（残ったものの）多少緩和され、実力によって「出世」することができるようになった（そもそも江戸時代には出世という概念がなかったとも考えられる）。そのことに関連して職業選択の幅も大きく広がった。これらの点は日本が大きく変わった点といえる。女性も男性と同じ学校に通うようになり（＝男女共学）、男女差別が多少改善された。その一方で、男性と女性で習う教科が違っていたり、国の役人はほとんどみな男性だったりと、男女格差は残っていたと分かる。これらは江戸時代の風潮が残った点といえる。…資料2の生徒

・近代化が進み身分による差別はなくなったため、だれでも努力すればいい身分に行けるようになったが、出世する絵双六には男子しか書かれていないことや男女で学ぶ科目が違うことから男女差別が完全になくなったとはまだ言えない。また、洋服を着るようになったり海外に行くという選択肢が出てきたこと、英語や理科を習うようになったこと、蒸気機関、黒板、ピアノ、テーブルといった海外からの輸入品が使われるようになったことから、海外とのつながりが深くなっていったといえる。一方そろばんや筆といった日本独自の物がまだ使われていることや着物を着る人がまだいることから人々の文化を中心に日本の文化から西洋の文化に変わっていつていることがうかがえる。

例②の Jamboard を作成したグループの生徒

・近代化によって、日本には西洋の文化や技術が浸透するようになった。それにより、科学技術の発展などに繋がった。前までは生まれた家で身分が決まっていたものも、自分が頑張れば出世できるようになった。しかし、性別差別や職業差別は残ったままである。

・近代化が日本で進んだことにより、職業や男女間で差がかなり激しくなった（服装などから読み取れる職業差や教育や高い地位にいる人などから読み取れる男女差等）。一方、これまでの家柄による身分差はかなり解消され、出世による地位の確立が行われるようになった。また、これまで長く続いていた、日本文化に加えてキリスト教や西洋の制度が広がり、日本は西洋により近づいていった。

・近代化によって、身分の低さや高さなどが和服を着ている人、洋服を着ている人などで簡単に見分けられるようになり、身分格差が広がってしまった。また、動力などが発達し、人々の生活水準が上がったと思われる。近代化されても、変わらなかったこともあり、男女の差別・格差はなくなっていない（授業が分かれるなど）。このように、多くの外国の文化が浸透していった。

（2）まとめの授業について

導入、展開の授業の後、生徒は「学習課題『近代化によって日本はどう変わったのか？』についてよく理解し、考えることのできる絵双六を作る」という夏期休暇課題に取り組んだ。休暇明けのまとめの授業の1時間目は、作成した各自のパフォーマンス課題を持ち寄り、グループで発表したのち、グループ内で相互評価を行った。2時間目は、クラス内で評価の高

かった作品を複数選択して生徒に配布し、グループを作って実際に遊んでみることを通じて単元の学習課題についてもう一度振り返る、という流れで展開した。以下に、実際の生徒による相互評価でも高い評価を受けた生徒作品などを掲載したい。

資料5 生徒のパフォーマンス課題作品

パフォーマンス課題作品例①「外国から見る明治の日本 冒険すごろく」(資料2の生徒)



パフォーマンス課題作品例②「地方分権から中央集権国家へ」



まとめの授業の様子



グループで課題について発表している様子



実際の作品で遊んでいる様子

5. 成果と課題

(1) 実践の成果

本実践の導入授業を終え、仮説とともに生徒が提出した感想や考察には、以下のような肯定的な記述を見ることができた。

- ・絵双六を見ることで、近代化による日本の変化がよく読み取れ、イメージがつかめた。遊びながら、イメージがつかめたので良かった。
- ・絵が多くて飽きなかった。また、明治の価値観がとても反映されている絵で考えさせられるものがあつた。今の双六とは全然違って、とても新しい感覚で楽しかった。
- ・このように昔のすごろくなどの文化に触れることで、時代背景などをこんなにも深く考え、知ることができるのはすごいなと思った。このようなちょっとした体験学習みたいなものがあると自分の頭でしっかり考える事が出来るから、知識も身につくのでとても良い。教科書を見て資料を見て学習するのもいいが、実際に体験するとここまで理解度が変わるんだなと思った。

普段の授業から、絵画資料を読み取ったり、ジグソー法を取り入れたりといった実践は行ってきたが、絵双六のように生徒が実際に遊ぶことのできる資料を用いた歴史の授業はなかったため、生徒たちが純粋に双六遊びを楽しみながら、積極的に授業に参加している様子をどのグループでも見ることができた。また、資料3のJamboardはクラスの全生徒が全班のものを閲覧できるようにしていたので、表現の巧拙はあるにせよ、多くの生徒が資料4のように複数の要素を含めた仮説を執筆することができていたと言える。

加えて、単元のまとめの授業では各生徒の作品の発表を行ったが、歴博資料の絵双六に時間をかけて接したこともあって、資料5のような非常に工夫を凝らした作品が多く見られた。パフォーマンス課題に取り組む際は、絵双六を作成するだけでなく、絵双六作品についての説明文を執筆させ、そこで学習課題「近代化によって日本はどう変わったのか？」についての考えをまとめてもらった。そのこともあり、単に明治時代の事柄を並べて絵双六に仕立てただけ、という作品にはなりにくかったようである。例えば、資料5の作品例③「伊藤博文 リアル立身出世物語」の生徒は次のように学習課題への答えをまとめている。

近代化とは、国家・社会・文化が、以前より市民的・合理的なものに変わることだ。

日本は、19 世紀に江戸時代まで続いた武士が支配した封建社会が崩壊し、明治維新によって、近代化が始まったと考えられる。四民平等になり、政治にも以前より多くの人が参加できるようになり、職種も広がり、職業の選択も自由になり、人々は立身出世を目指すようになった。国際社会に向き合い始めたことから、欧米の文化も積極的に取り入れ、社会や生活の欧米化が進んだ。その反面、チャンスが広がった分だけ、自分の生活や人生に対する責任は、大きくなったのではないだろうか。だから、人々は積極的に政治に関わる機会を求め、国内外での学問を志した。外交や政治にも、出身や性別による差別を排して、能力のある人材が積極的に登用された。自由や平等の考えの下、近代国家としてスタートした。

このような考えを絵双六として表現するのにもっとも適した題材が伊藤博文であると考え、彼の人生を絵双六にしたことがよく伺える考察である。少なくない生徒が、学習課題への考察と絵双六の制作を往還しながら、明治日本の近代化に対する認識を深めることができたのであろうと思われる。

(2) 実践を終えての課題

①授業で使用する絵双六の選択について

絵双六により所要時間や難易度に違いがあり、Bの「少年少女小学教科雙六」は早く終わってしまうことが多いのに対し、Cの「新版開化萬物雙六」に取り組んだグループは展開①のエキスパート活動での読み取り・考察が十分にできず、ワークシートへの記入が間に合わない状態で展開②のジグソー活動に臨む生徒が多いようであった。生徒の感想の中には、以下のようなものが見られた。

- ・ Bの絵双六をやったのですが、分かりやすいルールで面白かったのですが、何回も繰り返しやっていくとだんだんと飽きてくる。
- ・ 自分はCのすごろくをやったが、進めない数字があったりしたので、ゴールするのがとても難しく、授業中ほとんどの時間すごろくをしていたのに最後までゴールすることができなかった。

生徒にとって馴染みのある廻り双六（Bの双六）に比べて、初めて接する生徒が多い飛び双六（AやCの双六）はルールの理解にも時間を要する。複数の絵双六からの情報を総合した考察を求めている以上は、読み取りに要する時間に大きな差が出ないように、絵双六の選択を再考する余地があると言える。

②導入の授業と展開の授業の接続について

資料4の生徒の仮説例の波線部のように、格差や差別に関しては、生徒によってまったく異なる考察（解釈）が導き出されているケースがあった。近世までの単元の理解が不十分なことに起因すると思われるやや極端な考察や、印象論に終わってしまっているものも見受けられた。こうした仮説の違いなどを踏まえ、教科書を用いたその後の展開の授業でそれらを検証していくような流れになったとは言い難い。導入の授業と展開の授業との接続が、本実践の課題として残ったと言える。

③歴博のデジタルコンテンツの拡充

歴博には近世から昭和にかけての絵双六が多く所蔵されており、これまでの博学連携研究員によっても複数の実践が積み重ねられてきた。「教訓小学寿語六」、「十二ヶ月少年

あそびすご六」については、貸出教材としても用意されている。しかしながら、「館蔵資料画像データベース」には授業で使用可能なサイズの画像は公開されておらず、学校の授業での活用がしやすいとは言えない。現状の貸出教材のもの以外にも、簡単に授業で使用できるデジタルコンテンツが公開されれば、歴博資料を使った授業実践の可能性がより広がるのではないかと感じた。

参考文献

- ・西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計 パフォーマンス評価をどう活かすか』図書文化社、2016 年
- ・三宅なほみ、東京大学 CoREF、河合塾編著『協調学習とは 対話を通して理解を深めるアクティブラーニング型授業』北大路書房、2016 年
- ・加藤康子、松村倫子『幕末・明治の絵双六』国書刊行会、2002 年
- ・東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ「おもちゃ絵・絵双六で遊ぼう」（最終閲覧 2025 年 1 月 7 日）
https://d-archive.u-gakugei.ac.jp/exhibition/lib_exhibition_r3
- ・東京学芸大学附属図書館「講演：『絵双六の世界』」（最終閲覧 2025 年 1 月 7 日）
<https://lib.u-gakugei.ac.jp/about/exhibitions/252/kouen>
- ・国立教育政策研究所教育図書館貴重資料デジタルコレクション「教育双六」（最終閲覧 2025 年 1 月 7 日）
<https://www.nier.go.jp/library/rarebooks/sugoroku/>